

◆【海員随想】B I S K R A号航海記 (23) ① 新木繁雄

8 月 13 日 アルジェ港停泊中

朝食後、ボートを降ろし、上陸の準備をしようとしたが、風が強くて降ろせない。陸からは何の連絡もなし。釣り糸を垂らしてみたら全然当たりがない。

午後、主機クランク室内を点検した。ボルト類の緩みはなかったが、潤滑油の汚れがやや多い。「停泊中も油清浄機を運転した方が良い」と機関長に進言した。

アルジェ駐在の小枝さんが電話でアンカーの修理具合を聞いてきた。セット出港の時はうまく落ちたけど、巻き上げた状態が長く続くと、多分駄目だろうと返事をした。

ラマダンで荷役能力がガタ落ちのため、本船は少なくとも 1 週間は沖待ちだという。私かとにかく心配することではないけれど、積荷の生卵が腐ってしまう。

アルジェ後の予定としては、チュニスとの国境に近いアンナバで、日本向けの荷物を積み、シンガポール経由で日本に行くらしい。1 週間後の 20 日、姉妹船のビシヤールがここへ入港の予定だとのこと。

小枝さんに、フランスでテレックスが直接造船所とコンタクトできなかった件を話したら、川鉄物産経由で送った方が確実だとのことだった。結局、私のとった処置が良かったことになる。

4 時頃から釣りを始めたら、20 センチくらいの魚が 30 匹ほど釣れた。名前は分からないが食べられそうな魚なので、三枚に下ろし、テンプラにした。機関長一家も交え、夕食のおかず。

8 月 14 日 アルジェ港停泊中

朝 7 時、転錨、陸の近くに錨地が空いたのでそこへ移った。ここならボートで 30 分ほどあれば上陸できる。10 時半頃ボートを降ろし上陸用意。しかし船長がなかなか乗らないので出せない。皆いらいらして待っている。何をそんなに暇がかかっているのか。20 分近く待たせてようやくボートが出た。C N A N のオフィスで駐在員の皆に会った。満月さん、小枝さん、辻さん皆元気そうで何よりだ。そろってホテル・オラシーへ昼食に出かけた。このホテルはアルジェでは最高のホテルで、外国の要人が来るとここに泊まるようだ。

ラム（仔羊）のスペアリブとクスクスを注文し、食べながらニュースを聞いた。私の会社の同僚が、私たちと同じ名目で乗っているベルアベス号でシンガポール停泊中、他の船にぶつけられ、船底から浸水し、ドックに入っていること。本船はここで揚げ荷後、オランとアンナバで積み荷、極東へ向かう予定らしい。アンナバではリンサン肥料を積むから、揚げ地は北朝鮮になる可能性が強いとも言っていた。私のパスポートは北朝鮮と東ドイツでは通用しないことになっているから、上陸できないかもしれない。

C N A N の工務監督ジェナウイ氏に会った。彼は大変機嫌がよく、いろいろ冗談を言ってわれわれを笑わせた。「B I S K R A 号が順調に動いているのは君たちのおかげだ」と、持ち上げることも忘れない。「下船までにアルジェリアの乗組員がすべてをできるように教えてくれ」と頼まれた。

終業時間まで C N A N の事務所にいて、皆と一緒に駐在員の宿舎へ行った。途中、小枝さんが魚を買ってきた。1 匹はぶつ切りにしてしょうゆで炊き、もう 1 匹は刺身にした。ビールと飯で夕食。

ここは水道水の出が悪く、夕方ほんの 30 分ほど出ただけで止まってしまう。その間に炊事、洗濯、風呂など急いで済まさねばならない。水の大切さをしみじみわからせてくれるところだ。

「海員だより」